

これからチャレンジしてみませんか？

我が家のエコ生活

ゴミは日常的に出るものですが、考え方を換え（資源化等）、土（雑草等に付着）、水分は最少限にするため、限られた時間の中で、工夫して減量化を実践するの必要を感じています。

◎生ごみ堆肥化

台所の生ごみ（残飯、野菜くず等）は全てEM菌（自作）で処理して、庭の柿の根元、みかんの根本等、野菜畑に還元しています。

- 我が家（夫婦2人）では、燃やせるごみ出しは2週間に1回小袋（10L）程度になっています。
- EM菌容器は市役所生活環境課に申し込み、必要条件等確認の上、貸与されます。
- EM菌は当初は購入品を使用していましたが、その後は自作のEM菌を使用しています。

作り方

米ぬか、もみ殻、砂糖水、EM菌（購入品を培養）を混合し、常温、暗い所（太陽光遮断）、空気遮断（ビニール袋の中）の状態を培養をします。



※今年は畑に還元したEM生ごみからスイカが発芽、成長して、9月にスイカ3個（2kg～5.5kg）を収穫しました。

思いがけない収穫で、甘くて美味しいスイカを味わう事が出来ました。（K.M）

あきる野市役所からのお知らせ

粗大ごみの収集業者の電話番号が変更になっています！

島田産業 ☎595-2888

編集後記

来年からガス化溶融炉という新炉が稼働します。

灰を高温で溶融することによりできる溶融スラグは、路盤材などとして再利用され、最終処分場に埋め立てなければならぬものが大幅に減るといわれています。また、溶融の過程で出てくる排出ガス中のダイオキシンやばいじんなどはほとんど除去されます。

そうは言っても、ごみ処理には多額の費用がかかります。私たちは日々の生活の中で、「ごみを減らし、極力燃やす量を少なくする」ことを心がけていく必要があると思います。

その意味で、今後もごみ会議の果たす役割は極めて重要であると考えております。（Y.S）

これも資源！ コーナー（^^）

ごみも減る&役立つ = 一石二鳥の再利用

お菓子等のパッケージに入っている「乾燥剤」

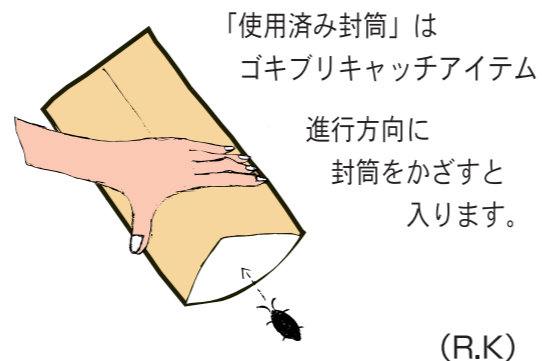


- ① 「生石灰乾燥剤」
⇒石灰と同じ、土に混ぜて利用できる
- ② 「シリカゲル」
⇒乾燥していれば脱酸素剤として有効
- ③ 「鉄系脱酸素剤」=鉄粉
⇒そのまま家庭菜園の土にばら撒く
⇒作物の鉄分の補給

「雑がみ類」も立派な紙資源



こんな使い方もあります



「使用済み封筒」は
ゴキブリキャッチアイテム

進行方向に
封筒をかざすと
入ります。

（R.K）

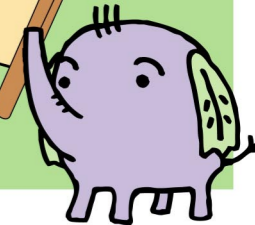
へらすぞう

第17号 2013年1月



げん人くん

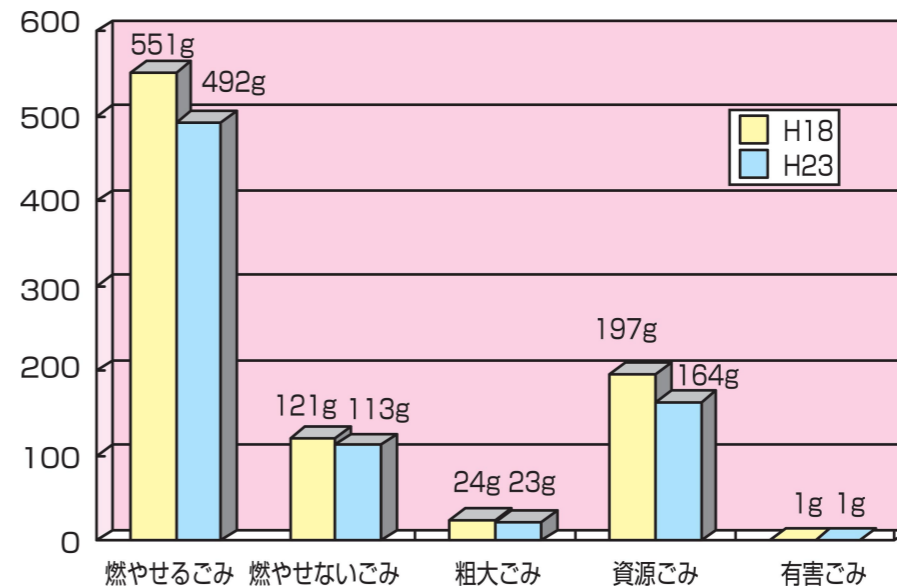
へらすゾウ



あきる野ごみ会議は、市民・事業者・市の3者が協力して活動している団体です。

ごみ資源発生量が5年前より減りました！！

ひとり1日あたりの発生量



皆様、ご協力ありがとうございます！

生ごみや落ち葉・雑草などの水分を多く含んだごみは、焼却炉に大変負担をかけます。焼却するために余計な燃料を必要とするからです。

もっと

しみをへらすぞう

（K.O）

生ごみはごみ袋に入れる前にひと押しして、水分を除きましょう。

また落ち葉や雑草は木の根元に寄せておき、土に戻しませんか？

◎自然のものは自然へ

「土から出たものは土に戻す」を原則にしています。雑草（資源）は畑の隅に積み重ね、間に油粕、鶏糞、窒素肥料（少量）を散布、水をかけ、その上に雑草を積み重ね、ビニールで覆い〔雨水防止、昇温、臭気防止（発酵時発生）の状態〕で3カ月程度維持、容積は1/3以下になり、簡易ぼかし肥料として土に還元出来ます。（K.M）

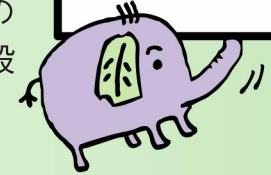
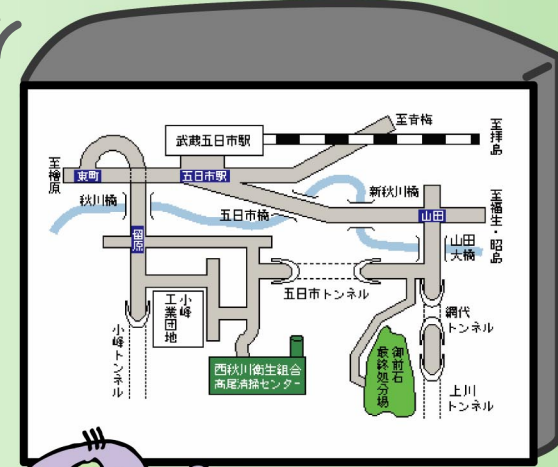
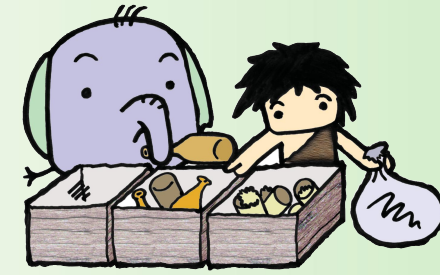
高尾清掃センターの新ごみ処理施設建設工事を見学



焼却灰の埋め立て量は大幅減へ

あきる野市内のごみの減量化、資源化を推進している廃棄物減量等推進員（あきる野ごみ会議）は8月23日、西秋川衛生組合高尾清掃センターの新炉建設工事を見学しました。新炉は老朽化した現在の焼却炉に代わる施設で、平成26年4月から運用できるよう工事が進められています。建設中の炉は「ガス化溶融炉」というタイプの施設で、これまで埋め立てていた焼却灰をスラグ化させるという大きな特徴を持っています。

西秋川衛生組合に新炉の建設状況、特徴などを聞きました。



現在の処理施設のとなりで建設工事が進んでいますが、いつごろ完成するのですか？



現在、建設工事が進められているごみ処理施設全体の完成は平成28年3月になります。このうち、焼却施設（ガス化溶融炉）が平成26年3月の完成を予定していますが、事前に試運転を行う予定です。



その後、既設焼却施設等を解体し、その跡地にリサイクルセンターが平成28年3月の完成予定です。



ガス化溶融炉は、新しい処理方式の施設との話を聞いていますが、その安全性についてどうなのでしょう？



西秋川衛生組合で建設中のガス化溶融炉と同形式の施設が全国で11箇所（平成22年9月末現在）稼働しており、安全性が確認されています。

組合が建設するガス化溶融炉の排ガス規制値は、国の法律における規制値より厳しい自主規制値を設定しています。

設置される排ガス処理装置等についても、この規制値を満たすよう設計・製作が行われます。稼働開始後は、この規制値を遵守するよう管理します。



新ごみ処理施設の建設費はいくら位でしょうか？



新ごみ処理施設整備工事の工事請負契約金額は、80億2200万円です。国からの補助金などを除き、4市町村で負担しています。



今後20年間の運営・維持管理契約を締結しているとの事ですが、ごみ処理に係る経費はどのようになるのですか？



現在とあまり変わりません。（市の負担金は、約6億円前後で推移すると見込んでいます。）



新炉でつくられるスラグはどのような物質で、どんな用途に再利用されるのですか？



ガス化溶融炉を先に導入している自治体の中には、スラグは貯まる一方で再利用がうまくいっていないという例もあるようですが……



建設中の流動床式ガス化溶融炉は、ごみが持っている熱エネルギーを利用して灰分を溶融し、ガラス状のスラグという物質を作ります。このスラグを道路用骨材やコンクリート骨材などの土木資材として有効利用します。

スラグとは……
灰を高温で溶融し、ガラス状にしたもの。
路盤材やアスファルト用の砂分として利用。



Q&A

